

## 第 1 回 宇治市都市計画マスタープラン検討部会 議事録

日 時	令和 2 年 8 月 4 日（火） 午後 3 時 30 分～午後 5 時 45 分
場 所	宇治市議会棟第 3 委員会室
出 席 委 員 （ 敬 称 略 ）	部会長 多々納 裕一 職務代理者 森 正美 委員 岡田憲夫、野田崇、山本直彦、小出純子、後藤正明
議 題	1．検討部会について 2．策定の経緯と検討の主な視点 3．全体スケジュールについて

### 会議概要

事 務 局	委員紹介 開催あいさつ 「検討部会について」説明
部 会 長	「策定の経緯と検討の主な視点」及び、 「全体スケジュールについて」事務局より説明を。
事 務 局	資料説明
部 会 長	ただいまの説明について意見・質問等あれば。
委 員	人口設定はどうするのか。総合計画で別に設定すると違う設定になる。検討部会で議論しても、総合計画で違ってくことはあるかも知れない。 基本的に 13 万とか 14 万といったそれ位の数字を目鼻として見ておく分には良いか。
事 務 局	総合計画と整合を図りながら、一定、将来人口の考え、宇治市案をまとめたい。 人口ビジョンをベースにどこに目標を設定していくのか、総合計画やマスタープランの中での議論にしたい。
委 員	宇治市の人口ビジョンでは、滞留人口や交流人口だが、土地利用という大きな観点から考えると当然定住人口だと思う。人口を考える時に、人口推計で定義自体の幅がどこまで考慮に入りうるのか、他の計画との整合が必要ではないか。
事 務 局	都市計画の人口は、定住人口で考えている。将来、多くの方に住んでいただきたい、また、賑わいやまちの魅力を考えたときに、交流人口というのが非常に重要。道路、鉄道、公共施設では交流人口も考慮が必要。
委 員	交流人口がいくらであるから、色々な施設の関係が、土地利用に含めて、何にそれを反映するのだろうという体系があまりはっきりしていない。
事 務 局	駅前広場の将来利用者を推計するには、反映がしやすい。道路は、なかなか反映は難しい。
委 員	地域別の計画の中で、拠点形成が可能なかどうか。今までの、空間をどう使うのかという環境と土地利用と少し違う観点のものが、何か入れられるようなマスタープランの見直しの中でできるのかそれはできないのか。 何に対して具体的にするのは、生活拠点として区域としては設定しているが、人口が減っているというがあるのでどういう風に結びつくのか。

委 員	人口ビジョンで、今後の市の施策により人口推計とは異なる場合がある。総合計画で、こういう話はどういう風にシナリオとして書くのか。福祉や観光など、ある種の重点的整備政策というのが入ってくると多少上がったたり下がったり、あるいは交流人口的な検討が必要となってくるのか。この人口の問題をどの程度考えられるシナリオとして少し幅を持った形で議論できるのか。
委 員	16ページの図ですが、下は13万いくらかで、上は14万ぐらいでその幅で推計されている。一方、都市計画では何でそんな人口が重要なのかという議論もある。
委 員	人口減少の人口ビジョンで都市計画としてどうやっていくのか、空家を増やさないためにもそれを使うということはそんなに簡単にはいかない。人口ビジョンを考える上で都市計画と結びつくところが明らかになれば良いのではないかな。
委 員	13万人になった時の宇治市の生産年齢人口は25%減る。税収がそれぐらい減ってくる。都市計画マスタープラン、地域づくりに結びつけていくという感覚だけはシェアしておいた方が良いと思う。どういう施策を都市計画マスタープランに書くというのが今回のミッション。
事 務 局	生産年齢減少による税収を踏まえたサービスの維持や、まちの大きさもそれに関連してくると思う。 宇治市は山と巨椋池に囲まれて拡大の要素があまり無いエリアとなってるので、宇治市の地形にあわせた計画がどのようなものが良いかは議論していきたい。
委 員	拡大していく都市をどういう風に制御するかが、今度は小さくなっていくときにどこだけは守るのか、都市サービスを維持できる人口規模をどうやってキープするのかという議論。 全地域が何々拠点地域ですという議論でマスタープランを書いておくのかどうかポイント。そういったところに向けては今のよう議論が必要と思う。
事 務 局	いずれ都市というのは、今の大きさは維持できなくなる可能性は高くなる。宇治の特性は、宇治川よりも西側は、ハザードマップ上、浸水するエリアになっている。そういうところを将来的にどう導いていくのかの議論は必要だと思う。
委 員	宇治はコンパクトシティなので、都市が縮小していけば、圧倒的にスポンジ化が色々なところで進むのではないかな。防災的な話を検討事項で良くすり合わせていかないと、人口減少だけで考えるのは宇治の場合にはそぐわないのではないかな。
委 員	宇治の市街化区域が広がっているわけではない。可住地域は限られている。その中でスポンジ化が悪いことなのか。兵庫県川西市では、高度成長期にできた新興住宅地はほとんど人が住んでいなくて、救急車が入るのも大変だという状況を聞いている。宇治はそういうわけは無いですね。
事 務 局	空家を見ると、京都府下でも率は低い。山手の方の住宅地では、高齢化してくると住みにくい、足の問題もある。小倉地域みたいな、都計法が適用されていない密集した住宅地の中で生活様式に合わない小さな家が空家になってきている。2戸1で使っていくとか、都計法が無いので公園が無い、道路もすべて私道というので、そういうところに活用していくとか、いくつかの特徴的なパターンが宇治市にはあるのではないかな。
委 員	水害に関して言えば、山手の方で土砂災害にしてもそう。小倉とか旧巨椋池周辺地域では、水害のリスクはあるのだと思う。そういったところに少し前からスプロール市街地が進んでい

	たという状況があるので、その辺のところは要望になりますね。
委員	マスタープランが、市民の皆様が、私たちの暮らしにどう落とし込んでいくのか、分かりやすくしてもらわないと本当に実効性のないものになってしまう。もっと広く市民の方たちの声を拾い上げていければと思う。
委員	<p>マスタープランは実効性を指しながら20年かけて方向づけていくので、将来都市構造図が一番基本となるマスタープランの図があった時に、広域拠点や産業拠点、地区拠点、中枢拠点とか一応性格づけがされているのが、これを20年目指してやってきて、どうだったのかが知りたい。</p> <p>地区拠点で小倉の地域など指定されているが、住宅状況や人口状況を見てもスポンジ化がすでに結構な速度で進んでいるというような、拠点に指定したけども結果的には、全体の拠点を作って、全体をマッピングするみたいな話でやるのか、もう少し地域の状況や規模感から適密適疎みたいな話をするのか、今後の話として、もしデータがあるのであれば検証材料として出していただければと思う。</p>
委員	前のマスタープランで書いてあることが、どこまでうまくできているのかが次回出てくるのかと思う。地域別構想の前の全体の構想あたり。何らかの評価がされるのかと。今日も一部はされていて、ここは見直しが必要、ここは継続していくということ。
事務局	<p>前半の全体構想の部分について議論を始めさせていただきたいと思っており、考える視点に対して、これは明らかに違う、この点は煮詰めないといけないというような、意見を頂きたい。</p> <p>拠点のあり方や、小倉とか、黄檗のような地区拠点というのは、日常生活を送る上での駅中心のエリアというイメージを持っておりまして、この拠点という表現がよいのかどうかも含めて、整理をしていきたい。</p>
事務局	マスタープランを市民の方が見て、分かりにくい面があるので、もう少し地域の皆様が考えるような細かい土地利用のあり方を、地域からの思いを踏まえて進められるように、ある程度方向性だけを示していくということで整理していきたいと思う。
部長	<p>地域毎の役割を拠点という表現で書いていて、全体として、それがどうだったのかという議論を、次回していくということですね。40ページまでのところについて評価をしていただいて次回見せていただきたい。</p> <p>宇治市の考え、素案として、それをベースに議論していただいて、改善点を考えていただいて、先生方も宇治市案に対して、もっとこんなデータが無いと評価できないとかまとめて頂ける方がよいのではと思う。その上で、具体的な議論を次回やったらよいのではと思う。</p>
委員	当初の都市計画マスタープランから、拠点という概念について、どういう周辺の産業みたいなものが関係して都市計画を進めてきたかということをし整理して頂ければ十分かと思う。
委員	広域拠点という言葉で描いているようなもので役割を、六地蔵に置くべきとか、拠点としているものは、何らかの役割を持った地域だと思う。そういう話は残ると思う。特色で置いていたけれど、この何年間かでどう変わったのかを分かった上で全体の議論をしたほうが生産的だと思う。

委員	<p>宇治市の地勢に特徴があるので、地勢が分かるような資料を用意いただければと思う。斜めから何カ所かから見れば、地図上で見た団地が、山の上にあるのか、平地にあるのか、随分変わってくると思うが、土地勘がないものでよく分からないので、何か、地勢が分かる資料を作っていたらと思う。</p>
委員	<p>総合計画とのすり合わせというか、行ったり来たりは、どこまで意識しないといけないのか。縮小する都市、コンパクトとか、都市のイメージは、総合計画では、そもそもイエスなのか、そういう考え方で良いのか。</p>
事務局	<p>総合計画とマスタープランを同時にすると言いながら、マスタープランの方を先行して検討していこうと思う。ここで得た議論の基本的な考えを、総合計画に投げかけて、こういった形で総合計画をまとめていくかという議論に持ち込んでいきたい。</p>
部会長	<p>未来を語っているが、人口、税収も減る。どう耐えしのぐかって言うような状況になってしまう。宇治の資源を考えれば、都市計画の中で、中宇治あるいはその辺りにあるような文化財だとか景観とか、都市計画のゾーンにはなっていないけど、炭山とか山地の辺りを資源と考えるとか、水害という、巨椋池の跡地の田んぼなど、いろいろ特色はあるが、どういう将来像を描くかということ。</p>
部会長	<p>当初のマスタープランを作るときも、「みどりゆたかな住みたい、住んで良かった都市」という都市づくりの基本理念として出していて、これに向かってやろうということで、マスタープランを作った。またそのようなものが重要です。</p> <p>ある程度総合計画にも反映していくことが必要になってくるが、そこについては、次回話しませんか。そこに向けて、都市づくりの基本姿勢としては、「市民と行政が対話し、ともに育む都市づくり」という話は、継続されると理解してよいと思っておりますが、全体の基本理念の、「みどりゆたかな住みたい、住んで良かった都市」でよいのかという議論はあると思う。交流人口みたいなものを、もっと入れてくるという議論になると、この言葉でよいです。そこをどう考えるかを含めて次回、何をどう変えていくべきかという話については、議論に含めるべきかと考えます。</p> <p>先生方、ポイントは、都市づくりの基本理念というところの文章です。ここに何を入れるべきかという議論が必要だと思います。そこについて何か、インプットをいただくとありがたいです。</p>
委員	<p>第5次総合計画の中で都市像が設定されて、その都市計画関連分野がマスタープランだったが、今回は、提示されていないので、都市像を議論するという結構踏み込んだ話で、了解されているのか。位置づけが、前は下にぶらさがっているというのがはっきりしているので、別に決定でなくてもそのアイデアを早く総合計画の方で引き取るということでも別にかまわないとは思いますが。</p>

事務局	<p>総合計画は、同じスピード感で2ヶ年かけて策定を進めます。今年度に基本構想、大きなまちづくりの方向性を定めて、来年度に中期計画でより具体的な施策を定めていく。マスタープランで言う全体構想が今年度で来年度が地域別構想で、リンクさせて進めて行くことを考える。基本理念の「みどりゆたかな住みたい、住んで良かった都市」の理念については、宇治市の総合計画の都市像にあたり、第1次総合計画から引き継いでいるものであるため、この場で議論して頂いたものを、そのまま反映することは正直難しいと思う。ここのマスタープランにおける、理念とかそういったものを議論頂いた上で、そういった形で、総合計画にフィードバックするかというのは、当然斟酌させていただければと思います。イコールではなかなか難しいかと思う。</p>
委員	<p>都市計画マスタープランは20年なので、長いビジョンで、それを総合計画が逆に、時間的スパンで言ったらフォローするという形に基本的にはなるはず。総合計画で議論されている内容で大事だと思っていることは、事務局のサイドから出してもらうようにしたほうがよい。マスタープランに事務局の考えとしてできる限り反映する。総合計画も同時にリパースする。</p>
委員	<p>総合計画の方が、時間は短いから実現の可能性が高いものとなる。マスタープランの場合は、もうちょっと理念的なものでもよい。やりとり出来るようなやり方を考えてもらえないか。今までの総合計画での理念、変遷、そういった中で、総合計画的な観点から言うと大事にできているとか、大事だと思っていることがあれば、それを入れてもらえると、先生方の意見と同じ土俵で議論して、総合する形で、都市計画マスタープランの全体の理念と言う形で用意するというにすれば総合計画にも反映していただける。</p>
委員	<p>「持続的」という言葉ですが、これを本当にしっかり織り込むのかどうか。空間計画では、持続可能な都市は何かとなる。SDGsでは17項目もあって、逆に言うと、セクターを越えて繋がってくるかどうかが問われる。持続可能という言葉、ただ何か無くならずしっかり残る気がするというだけの意味で使うと、言葉だけで終わってしまう可能性がある。</p> <p>人口の捉えなおしも、持続可能性の問題として捉えることもできるわけです。それをいきなりここでやるのは難しいですが、世に言うSDGsのようなものも本当に意識して、1つのモデル都市として整えていこうということなのか、もう少し、それほど重たい意味ではないのか、このあたりの話は、都市をどうもっていくのか思想にもかかる。総合計画も、都市をどう整えるかという観点からみると、今のような問題がひとつある。</p> <p>人口の問題にも関係しますが、競争・競合しあう都市というのがあって、選ばれる意識、競合しあう都市みたいなものを意識して都市政策を作っていくのかは、結構大きな問題と考えている。六地蔵のあたりに、都市の境界部の問題を空間計画としてどう捉えるか、JRの鉄道の再整備もありますが、競合だけでなく協調もあり、都市をどう見て、どういう思想で整えていくのか、そういう見方も非常に重要になってくるのではないかと。</p>
事務局	<p>住民サービスを一定維持しながら住みよいまちに未来も続けていきたいと思う。どういう形であれば持続可能なのか、宇治市の魅力発信というところも、社会増減0というところに結びついてくるところかと思う。文化的な資産、子育ての施策、高齢者の施策等のさまざまな施策を組み合わせ検討していく必要があるので、総合計画との連携も不可欠となってくる。</p>
委員	<p>インフラが2割減って人口が2割減だからそういう風になっているように見えるが、床面積</p>

	<p>が20%減。経費が20%減になるということか。</p>
事務局	<p>実際には人口は23%ほど落ちる見込みだったので、それを踏まえて上位計画を策定するにあたり、いかに経費を縮小し20%として、考えをまとめさせていただいている。</p> <p>厳密に年間9億円ほど毎年かかってくるので、今までと同じになるかということそれは試算できていませんが、基本的に面積を減らせばそれにのってくる。</p>
委員	<p>その事によって発生するサービスの低下についての試算はあるか。</p> <p>ある種、誘致圏みたいのもありますね。たぶん無くなると困るものもある。縮退の話が議論として出てくると思う。今の公共施設等の管理計画やフォローアップはどのように考えられているのか、そのような情報も提供いただけないか。</p>
事務局	<p>公共施設の見直しについても今後、人口が減ってくればサービスの提供の仕方も変わってくる。ちょうど未来型公共施設を検討するような場で議論している。将来的にもサービスを維持しながら公共施設としての役割を果たしていきたいと思う。</p> <p>施設の種類によって求められるものが変わってくるので、個別の施設毎の計画を、順次作っているような状況で、総合計画の個別施設の考え方とお示しできるものはある。</p>
部長	<p>そのような色々なことを相互に反映して、次回のマスタープランの全体像の評価というところについて、たたき台を出していただいて、そのうえで、次の方針でどのような内容を議論の中に入れていくのかももう一度詰めていきたいと思う。</p>